

東大とA I Mを共同研究

メタボ治療薬開発目指す

大日本住友製薬 トランスジェニック

大日本住友製薬とトランスジェニックは東京大学と、アポトーシス抑制因子「A I M」(Apoptosis inhibitor of macrophage)に関する共同研究契約を締結した。A I Mは、宮崎徹氏(東京大学医学系研究科教授)らによって、メタボリックシンドロームに関連する分子として研究が進められている。マクロファージよ

産生されるA I Mは当初、細胞のアポトーシスを抑制する分子として宮崎氏が発見したのだが、その後の研究で、作用する細胞の違いによって、様々な作用があることが明らかにされてきている。

代表的な作用は、マクロファージでのアポトーシスの抑制で、マクロファージが不死化することで、取り込んだ酸化LDLが蓄積し、泡沫化して動脈硬化の進行に関わっていること。そのほか最近では、脂肪細

胞に取り込まれると、脂肪細胞に蓄積した中性脂肪を分解して、肥満を制御したりすることが話題になっている。そのため、メタボのバイオマーカーや創薬ターゲットとして期待されている。

大日本住友製薬は、A I Mに関して、2010年9

月に東京大学と共同研究契約を締結。A I Mが関与する様々な疾患に対する新しい医薬品を創製することを目指して、共同研究を実施してきた。今回、トランスジェニックが、共同研究の一部であるA I M抗体に関して参画することになり、三者間で新たに共同研究契約を締結した。

東京大学と大日本住友製薬は、引き続きA I Mについての共同研究を進めると共に、トランスジェニックを含む三者でA I M抗体の研究を推進する。